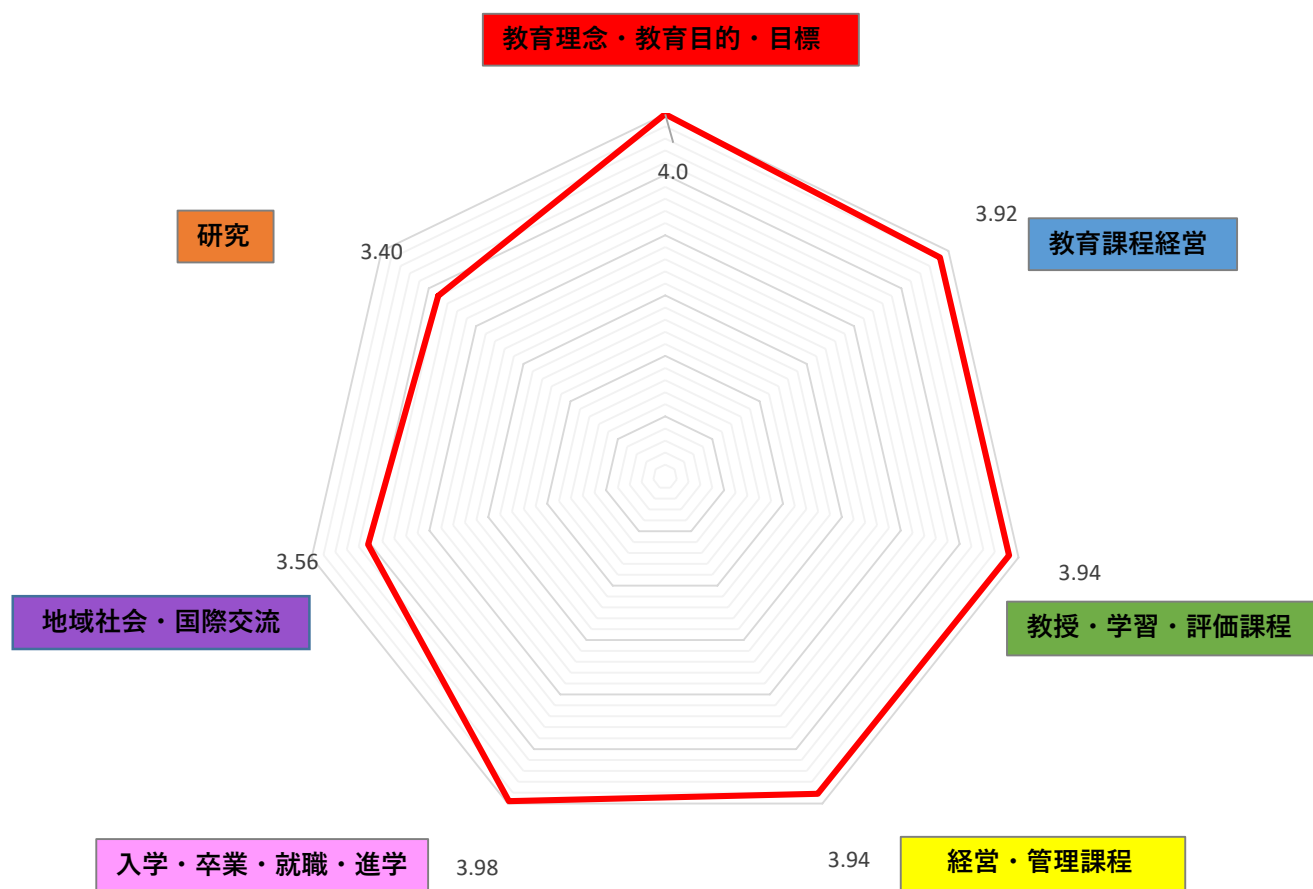


令和6年度
三草会札幌看護専門学校
学校自己点検・自己評価報告

〈7領域における自己評価〉



分析方法

「A:そう思う」・・・4点

「B:ややそう思う」・・・3点

「C:あまりそう思わない」・・・2点

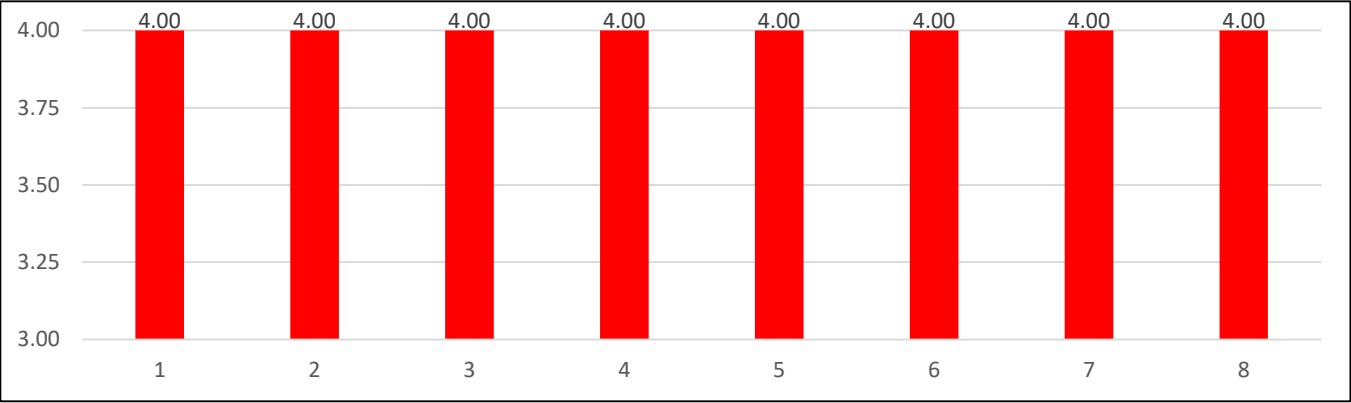
「D:そう思わない」・・・1点

無回答は平均値の分母から除外

回答数 教員10名

教育理念・教育目的・目標

平均値が4.0と前年度と同評価である



	項目
1	教育理念・教育目的は、本校の教育上の特徴を示しており、かつ、法との整合性があるか。
2	教育理念・教育目的は、学生にとって学修の指針となるように具体的に明示され、実際に指針となっているか。
3	看護・教育・学生観について、教員の教育活動の指針となるように明示され、実際に指針となっているか。
4	本校の教育理念・教育目的が教育目標と一貫しているか。
5	教育内容の階層的関連性、配分の考え方が明示されているか。
6	教育内容は、設定した教育内容を網羅しており、かつ、卒業時の学生の到達度が明示されているか。
7	教育目標は、看護者としての能力を育成する側面と修学者としての成長を促すための側面から設定されているか。
8	卒業後の継続教育の考え方を示した上で看護基礎教育として、教育目標を設定しているか。

教育理念、教育目的・目標

< 現状 >

三草会は「あることの尊さのアプローチ(一緒に治る喜びを分かち合おう)」が基本理念である。理念の核は「人間の尊厳」と「人間愛」である。

本校はこの2つの精神を基盤とし「人間の尊厳と人間愛の精神が学生ひとりひとりに根付き、変化し続ける社会の中で看護を実践できるための基礎的能力を養い、人々の健康と幸福な生活の向上を目指し、保健・医療・福祉の中で社会に貢献できる専門職業人の育成を行う」としている。この理念は設置者の精神を反映しており、学生にとって学修の指針となるように明示されており、教員の教育活動の実際の指針となっている。

また、本校ではどのような看護師を育てたいか、つまり卒業時の教育目的から看護師像を明確にして 理念、目的が目標と一貫しており学校の特徴が反映されていると考える。

平均値4.0と達成度が高い値が継続している理由としては令和4年4月から施行されたカリキュラム改正に伴いカリキュラム評価を行った結果と考える。

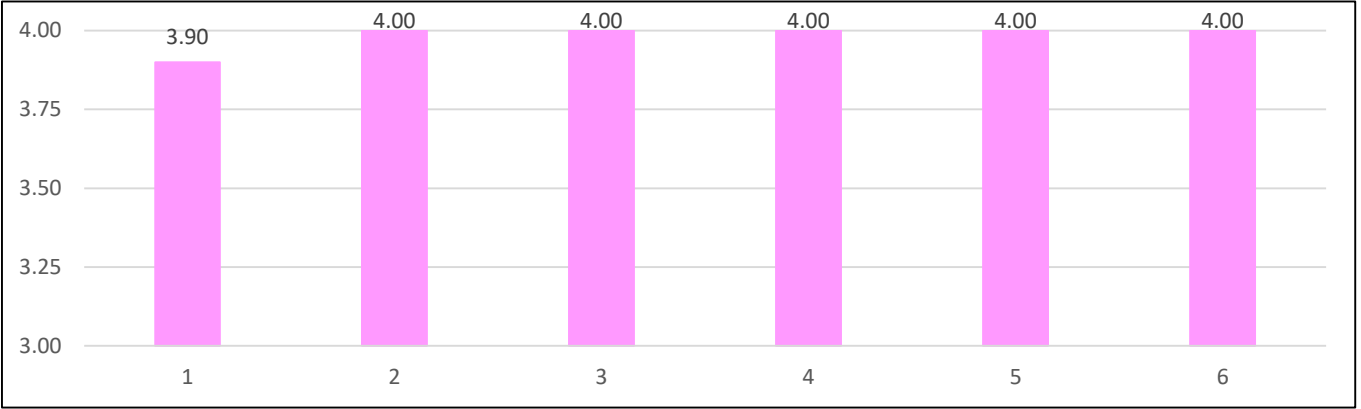
< 課題 >

評価にあたっては、本校の教育理念の核である「人間の尊厳」「人間愛」の精神が根付いて卒業を迎えることができたのか、卒業時における学生の教育目的・目標の達成状況が指標となる。改正カリキュラムがスタートし教育の結果をどのように評価するか、カリキュラム評価に具体的な方法を検討していく必要がある。

< 改善策 >

教育理念・教育目的・目標は学生にとって学修の指針となることから、評価にあたっては、卒業時における学生の達成状況が指針となる。本校のカリキュラム評価と開発の考え方を示し計画立案し取り組む。教育の結果をどのように評価するかについての考え方、具体的な方法を示し、効率的、効果的な評価計画を作成していく。実施にあたっては評価委員を立ち上げ組織的に運行していく。

平均値3.98と前年度と同評価である



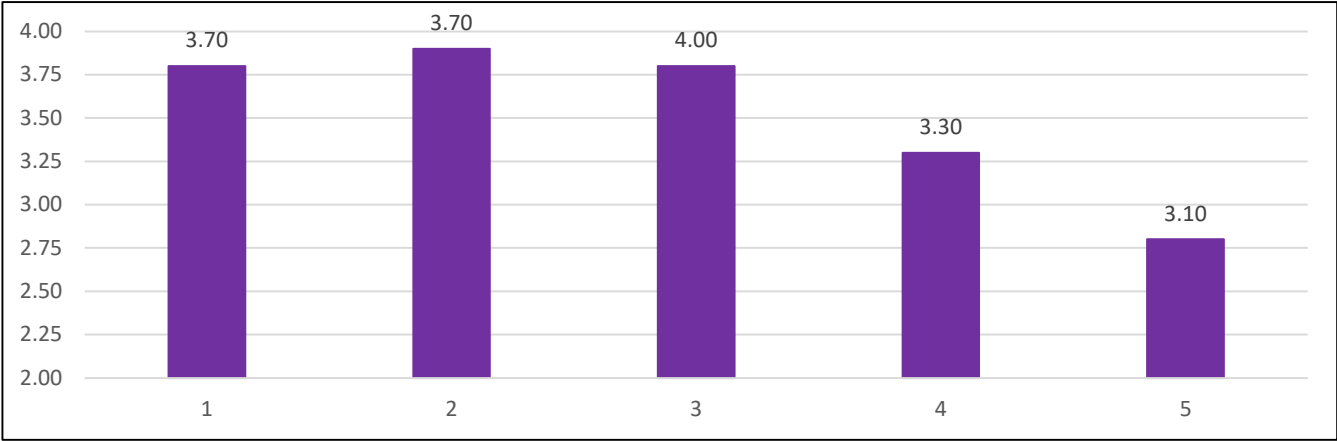
	項目
1	本校の教育理念・教育目的との一貫性から、入学選抜の考え方(選抜基準等)を明確にしているか。
2	入学後の成績の推移等、入学者の状況を分析し、選抜方法の妥当性を検証しているか。
3	入学希望者を確保するため、積極的な募集を行っているか。
4	卒業時の到達状況及び就業・進学状況を分析し、教育理念・教育目的との整合性を検証しているか。
5	卒業生の就業先での評価を把握するために就業先との情報交換や調査ができる体制を整えているか。
6	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理して、教育理念・教育目的、授業の展開に活用しているか。

V.入学・卒業・就職・進学

- < 現状 >
- 就職進学支援の年間計画を立案し病院見学・インターンシップ、就職ガイダンス、就職リハール等のガイダンスを計画的に実施している 担当教員は校長・教務主任・担任が(進路相談教員)個別対応を随時行っている。
- 掲示板には、各施設からの紹介される見学会・インターンシップ日程表、就職試験日程表を掲示している。
- オープンキャンパス4回、高校訪問、進学相談会、高校相談会など本校のPR活動は継続している
- < 課題 >
- 1.卒業時の到達状況及び就職進学状況を分析していく
- 2.入学者の選抜の考え方と教育理念・教育目的との一貫性、選抜の公平性、選抜方法の妥当性、受験者増への取り組み
- 3.広報活動への取り組み
- < 改善策 >
- 1)進路選択の状況と教育理念・教育目的との整合性
- 2)卒業時の看護実践能力及び卒業後の活動状況の評価
- 3)入学試験選抜内容の検討
- 4)広報活動の拡大
- 徐々に入学受験生の減少が表れている。北海道の看護師不足が到来しており、養成校として看護師の魅力、看護の素晴らしさなど地域にPRを広めていく。また、職業選択への導きとして中学生と東区住民を対象に学校開放を行い令和6年度よりPR活動を拡大していく。

地域社会・国際交流

平均値が3.56であり前年度3.52とほぼ同評価となっている



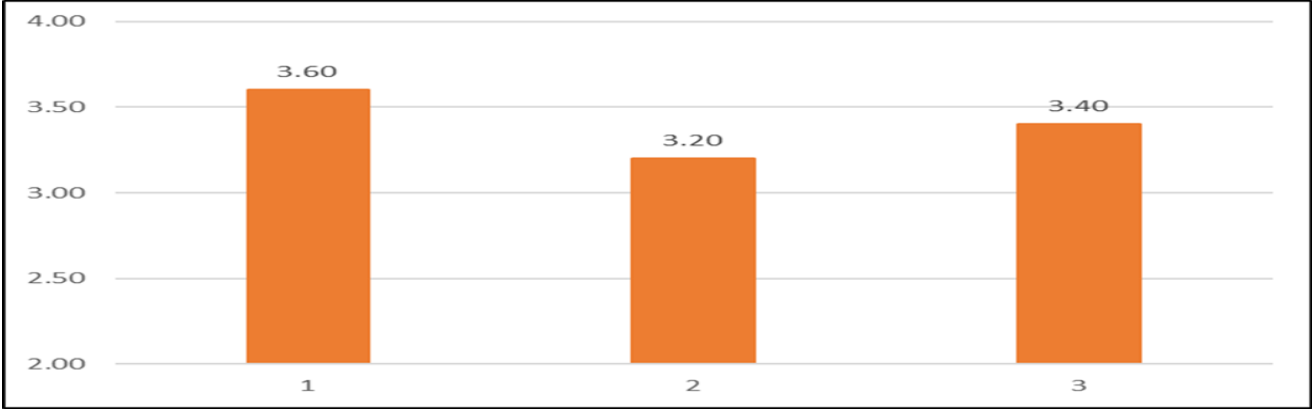
	項目
1	社会との連携にむけて、地域のニーズを把握し看護教育活動を通して、地域社会への貢献を組織的に行っているか。
2	本校の教育活動について地域社会のニーズを把握する手段、また地域社会へ情報を発信する手段をもち、かつ発信しているか。
3	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を本校の学習・教育活動に取り入れているか。
4	国際的な視野を広げるための授業科目を設定しているか。
5	国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境が整っているか。

VI.地域社会・国際交流

- < 現状 >
他の項目と比較すると低く特に国際交流は実施までには至っていない。
町内会の活動としては、看護の日に町内会にある公園のゴミ拾いをボランティア活動として年間計画として実施している。ホームページではこれらをリアルタイムな情報発信を行っている
令和5年度(改正カリキュラム)より、地域・在宅看護論演習で地域へのフィールドワークを実施している。
学習環境では校内・図書室のパソコン利用が出来る設備をしている。専門書蔵書の拡大を図り図書室で学習できる環境を整えており、学生は活用している。
- < 課題 >
関係福祉施設及び地域の福祉施設等のボランティア活動への奨励
- < 改善策 >
学生を地域活動に参加させることで、将来看護学生になる自分たちが社会のニーズに応える意識の高揚を引き続き図りたい。
1)地域社会と交流するための体制(地域社会への貢献とニーズの把握 資源の活用)
2)広報活動に情報発信の拡大
3)国際交流のための体制(学生・教員の国際的視野を広げるためのシステム)

研究

平均値が3.40であり前年度と同評価である



	項目
1	本校には研究に価値をおき研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地があるか。
2	教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか。
3	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか。

VII.研究

< 現状 >

個人の研究活動までは至っていないが、自己研鑽のための研修・研究活動費は設けられており、各専任教員の学会参加は継続されている。
校内研修委員係を組織に位置付け授業研究、模擬授業、授業評価、事例検討会、学会報告会の年間計画を立案し教員全員が実施し継続し、「私の学校自慢」の優秀賞授与により日常の教育実践の意義を教員間で共有ができ、個々の研究活動の糧になる事を期待したい。

< 課題 >

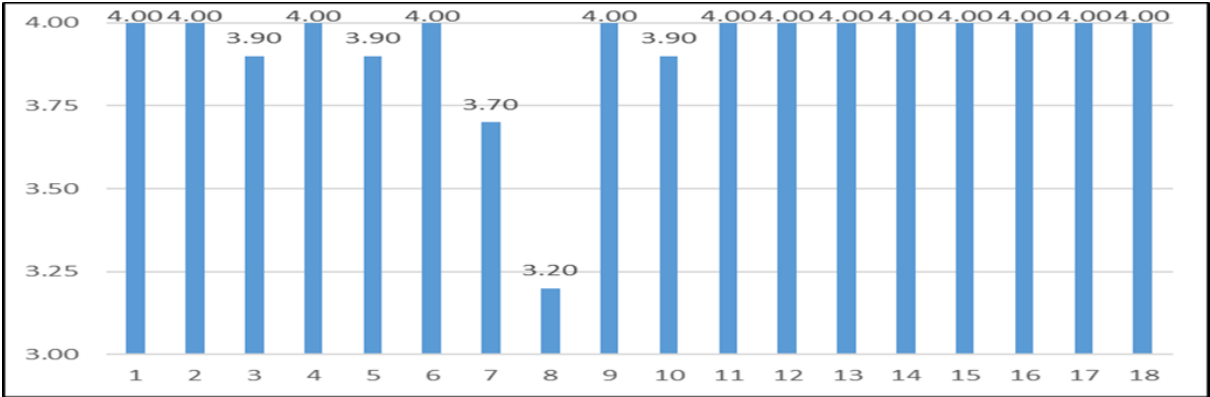
「教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか」が3.2ポイントで低値である。
教員個々のニーズを把握しながら実践できるよう研究時間・環境への配慮は必要である

< 改善策 >

- 1)教員の研究的姿勢の涵養
- 2)教員の研究活動の保障と評価

教育課程経営

平均値が3.92であり前年度とほぼ同評価となっている



	項目
1	科目と単元の構成にあたって、明確な考え方と根拠があり、その考え方は教育理念・教育目的・教育目標と整合性があるか。
2	構成した科目は、本校の特徴を表しており、看護者の養成するのに妥当であるか。
3	単位履修の方法とその制約について、教員・学生の双方が解るようになっているか。
4	単位認定の基準及びその方法は、看護者に必要な学修を認めるものとして根拠があり、また、妥当であるか。
5	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えているか。
6	教育課程を評価する体系を整えているか。
7	教員の担当科目と担当時間数は、教員が専門性を発揮できるように配分されているか。
8	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えているか。
9	教員が自ら成長できるように自己研鑽のシステムを整えているか。
10	教員が相互に成長できるように相互研鑽のシステムを整えているか。
11	臨地実習施設は、本校の教育理念・教育目的・教育目標を理解しているか。
12	臨地実習施設は、学生の看護実践への学修を支援する体制を整えているか。
13	実習施設における学生の学びを保障するために臨地実習指導者と教員それぞれの役割を明確にしているか。
14	実習指導者と教員の協働体制を整えているか。
15	学生からケアを受ける対象の権利を尊重するための考え方を明示しているか。
16	対象の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っているか。
17	実習において学生が関係する事故を把握し、分析しているか。
18	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っているか。

.教育課程経営

< 現状 >

シラバス、教育計画、学生便覧、学内実習・演習要項、臨地実習要綱・指導要綱
各看護学実習要綱・指導要綱の提示により、学生・保護者、実習施設に本校の3年間の教育課程の内容及び単位修得迄の過程を示している。
各看護学担当教員は、毎年のシラバス作成にあたり内容の見直しを実施している。
カリキュラム改正に伴い実習施設も拡大しており、本校の教育への理解を深め指導体制の協力を得ている

本校では、研修係を組織建てしており、新任教員は模擬授業による相互評価、教員間の授業研究・評価及び事例検討を年間計画として進める。非常に個々の教員が教育実践力の向上に有効であるとの評価が挙げられている。個人の自己研鑽では毎年、専門看護学領域の学会・研修会に参加し、最近の知見や他校の教育実践報告を参考に講義・演習に取り入れて、課題に対する改善策を試行することは力量形成に役立っていると考えます。
臨地実習指導の効果を得る手段と、本校の教育課程(学生理解)の理解を得る機会として、実習施設から看護学の講義を非常勤講師として依頼している。

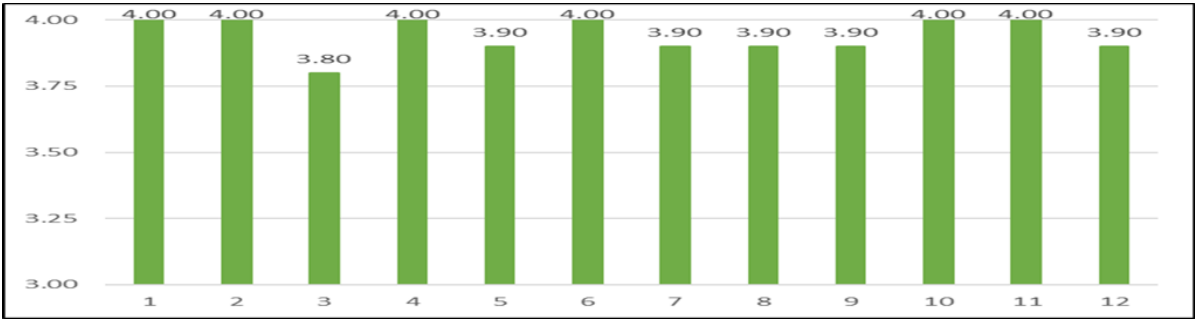
< 課題 >

8の項目「授業準備のための時間をとれる体制を整えているか」の評価では「あまり思わない」が3,2ポイントの回答があり前年度と同じ課題回答であった。引き続き現状を把握し教員が授業準備のための時間の確保に向けていく

< 改善策 >

教育課程評価は組織的に体系作りを行い運行していく
教員の授業準備のための時間確保に関しては、本来の授業や実習指導以外に事務教務も多く抱えておりその点の改善策として、非常勤教員(教員資格有)を採用し従来の教員が実施していた事務業務を担い、業務整理を継続的に行う。
また実習指導教員を臨地実習での指導に限らず学内実習・演習の企画にいれ、専任教員と共同させ教育にあたらせることで専任教員の時間確保にむける
実習施設への指導体制の協力依頼は継続して行く。

平均値が3.94と前年度3.92とほぼ同評価である



	項目
1	授業内容は、教育課程との関係において、学生のための授業内容として設定しているか。
2	授業内容のまともりは、看護学の教育内容として妥当性のある内容となっているか。
3	授業内容と関連性において重複や整合性、発展性などが明確になっているか。
4	授業内容に応じた授業形態(講義・演習・実験・実習)を選択しているか。
5	授業展開に用いる指導技術(説明・発問・指示・演示・質問等)についての考え方を授業計画に明示しているか。
6	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしているか。
7	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、実習指導者の協力体制を明確にしているか。
8	教員は、評価計画を立案、実施し、評価結果に基づいて、実際に授業を改善しているか。
9	学生に評価の方法について、特に単位認定のための評価基準と方法を公表しているか。
10	単位認定の評価は、公平性が保たれているか。
11	シラバスの提示や学習への指導は、本校全体として一貫性があるか。
12	シラバスの提示や学習への指導は、主体的な学習への動機づけと支援になっているか。

< 現状 >

毎年授業計画に沿って進めているが、非常勤講師の変更や講義時期の希望等により、授業計画の差し替え等、学生へ通達しながら進めている。

授業形態は対面授業を主に実施した。授業計画立案では、各看護学の単位認定者、それぞれの科目担当教員の教材観、学習観、教育観や看護観を基に実施している。又、授業内容に応じた授業形態の選択・指導技術の工夫・教材教具の活用と開発の展開を選択して実施している。

教授・学習・評価過程は、学生、教育内容、教員の3本柱によって成り立つことから、入学時に授業評価の考え方をガイダンスし承諾を得て、授業評価を実施している。「学べたこと、難しかった内容、講義に対する意見」などを無記名で記載している。教員も授業計画の目標達成の自己評価とフィードバックを実施している。

学内実習・演習は、担当教員とリフレクション面談の時間を設定しており、評価表のすり合わせを中心に課題の明確化をすることで教員と学生間の共通確認ができ、看護技術の完成度も早く得られている。

臨地実習では、指導者・学生・教員3者が共通の評価表を持ち寄り、3者評価を行っている。

日本看護学校施設協議会(本校加盟校)が令和4年度から取り組んだ「私の学校自慢」の企画に本校教員が投稿し優秀賞を授与した。内容は専任教員の校内研修がテーマであり上記の授業研究、模擬授業、事例検討会、学会報告会への取り組みが評価された。

この事は教員の教育活動の自信に繋がると考え継続していきたい。

< 課題 >

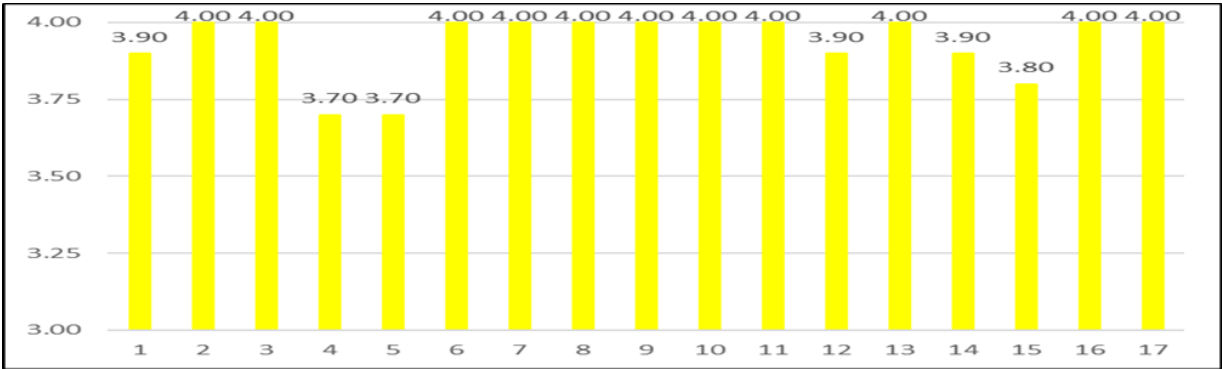
評価が高い理由は各教員が意図的な教育活動を行ってきた結果と考える。

< 改善策 >

3年間の教授・学習・評価課程の継続評価を行い課題の抽出・改善策を明確にしてカリキュラムに反映していく。教員個々に抱えている課題への対応も継続していく。

経営・管理課程

平均値が3.94と前年度3.91とほぼ同評価である



項目	
1	設置者と管理者の意志・指針についての考えが示されており、教職員はそれを理解しているか。
2	組織体制は、教育理念・教育目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確になっているか。
3	組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるような体制を整えているか。
4	教職員は、本校がどのような財務基盤によって成り立っているかを理解しているか。
5	それぞれの観点から財政についての教職員の意見を経営・管理課程に反映できるようになっているか。
6	施設・設備は医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて計画的に設備改善しているか。
7	教職員の倫理規定が明確になっているか。
8	教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・教育目的の達成と整合性をもっているか。
9	学生及び教職員にとっての福利厚生施設・設備は、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように設備されているか。
10	危機管理マニュアルを策定し、それに基づき防犯・防災(非難)訓練を行うなど、安全確保の体制を整えているか。
11	健康管理担当者を設置し、学生の健康管理を支援するための年間計画を立案・実施・評価を行っている。
12	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか。
13	教育・学習活動に関する関係者(保護者等)へ情報提供を行うことによって、その協力支援を得ているか。
14	広報活動は、看護者を養成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容となっているか。
15	本校の運営においては、設置者の将来構想の下に運営の中期・短期計画、年間計画を立案し、実施・評価をおこなっているか。
16	自己点検・自己評価の体制を整え、学校評価として運用しているか。
17	評価機能は、カリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、教育理念、教育目的、教育目標を維持改善するものとなっているか。

IV.経営・管理課程

< 現状 >

学校経営の道標として校長は、学校運営方針、学校経営・管理方針及び学校運営重点目標を示している。学校関係者評価会議を行い、自己点検・自己評価報告に関する評価・意見が出された。内容に関しては、ホームページで公表している

2020年度より授業料減免制度認可校となり修学困難学生への適切な対応を行っていく

< 課題 >

項目4「教職員は本校がどのような財務基盤によって成り立っているかを理解しているか」と項目5.「それぞれの観点から財政についての教職員の意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか」では「C」「あまりそうは思わない」の評価があり3,7ポイント(前年3.4ポイント)の回答となっている。

< 改善策 >

- 1)カリキュラム評価の準備・企画・運行を計画的に進める（カリキュラム改正と共に）
- 2)広報活動及び入学試験に関する検討
- 3)学生生活の支援と教材教具の点検と補充
- 4)年度予算の継続説明